



# 学校だより

令和6年度 11月号  
令和6年 11月1日  
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

学校生活を通して自信をもつ



校長 小林 正樹

朝夕に肌寒さを覚え、秋の深まりを実感する今日この頃となりました。早いもので今年も残すところ2か月となり、2学期も後半に入りました。地域や保護者の皆様には、本校の教育活動推進のために、いつも温かなご支援、ご協力を賜りありがとうございます。

生徒会活動や部活動などは、3年生から2年生、1年生へと引き継がれ、9月の下旬から10月の中旬にかけて、さいたま市新人体育大会が開催されました。どの競技も生徒たちは一生懸命頑張っていました。大会を終え、勝った時は勝ち誇ったりせず謙虚に、負けた時は落ちこまずに心のバネにして引き続き頑張りたいです。1・2年生には、気持ちを切り替えてこれからも努力を積み重ねていくことを期待します。また、科学部では、部員たちが目的をもった観察・実験を行い考察するという過程が実って、第75回埼玉県科学教育振興展覧会で最優秀賞を受賞しました。すばらしいです。3年生は先週の金曜日から三者面談が始まっています。3年生にとっては、いよいよ進路について具体的な話を進めていく時期となりました。自分に合ったよりよい進路決定ができるよう家庭と学校が力強く連携していくことを期待しています。

さて、10月22日(火)、第24回さいたま市中学校駅伝大会が荒川総合運動公園で行われました。生徒たちは夏休み前から練習を始め、朝練習や中間テストの時期にも実施した特別練習などもあり、苦勞もあったと思います。当日は学校の代表として誇りと魂をもって、襷をつないでくれました。また、アップする選手へサポートメンバーが声を掛けたり、励ましたりする姿、さらに指導者の先生方の熱い応援などからも駅伝チームの雰囲気を感じ取ることができました。そのおかげで、参加チーム71校中、男子チームが7位入賞、女子チームも7位入賞して、女子チームが11月2日(土)に熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催される第92回埼玉県駅伝競走大会に駒を進めました。男女とも入賞し賞状を手にしたのは71校中3校だけです。すごいで、大谷口中学校。県大会では体調を整え、しっかりと準備して自己タイムを更新する粘り強い走りを期待しています。

話は変わりますが、私は学校生活を通して、生徒の皆さんに自信をもってもらいたいと考えています。そのためには、自己有用感をもてるのが大切です。自己有用感とは、「他人の役に立った」「他人に喜んでもらえた」など他者との関係なしでは生まれない自己に対する肯定的な評価となるものです。例えば、重い荷物を持ち、駅などの階段で困っているお年寄りを助けたりする行為は見返りを求めているのではなく、お年寄りの役に立ちたいという素直な気持ちからの行動になります。子どもたちは様々な場面で「自分が人の役に立った」、「誰かを笑顔にできた」と実感することが肝要です。自己肯定感とは、自分のことを「価値ある存在だ」「かけがいのない存在だ」と思う気持ちであり、様々なことに挑戦する意欲や困難に立ち向かう心などの基盤となるものです。子どもたちは、「大切にされている」「認められている」という実感をもつことや、「できた」「自分もやればできる」という自信をもつことで自己肯定感を高めていきます。

そのためには、我々教師、親など、大人たちの関わりがとても大切になります。大人たちが子どもたちのよさを認め、ほめたり、励ましたり、一緒に悩んだり、子どもたちの心に寄り添っていくことが重要です。

最後に、保護者・地域の皆様には、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 読書週間の取組 ～この一行に逢いにきた～

本校では、毎朝10分間を使って朝読書を実施しています。時間になると学校中が静まり返り、落ち着いた雰囲気の中で読書が始まります。また、10月25日(金)から秋の読書週間が始まりました。この期間では先生方のおすすめの本を紹介する特設コーナーの設置や図書委員会の生徒を中心に啓発活動を活発に行っていきます。朝読書の時間に前期図書委員による絵本、短編集の読み聞かせを行います。この活動を通して、学校図書館の本の再発見や新しいジャンルへの興味が広がってくれると期待します。



ご家庭でもぜひ本を読むことが自然な家庭環境をつくっていただき、例えば親子で同じ本を読んで、一緒に感想を語り合うというのはいかがでしょうか。本は心の栄養です。読書の秋、心に残る本との出会いを大いに楽しんでください。